

利根川・江戸川ブロック公述書

開催場所：野田市中央公民館 講堂

開催日時：平成19年2月28日

以下の部分について公表します

届出者の住所

千葉県 市川市

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人 1

利根江戸-17

意見の概要

私は千葉県が設置した三番瀬再生計画検討会議、三番瀬再生会議の委員を務め、現在は「生物多様性ちば県戦略」策定のための専門家会議に市民委員として出席しています。千葉県にとって大切な自然環境である三番瀬、江戸川、印旛沼等の環境を保全再生し、さらに生物多様性を守っていくためには、「利根川水系河川整備計画」が環境省の定めた「生物多様性国家戦略」、1997年の改正河川法に示された環境重視の姿勢と住民意見の尊重、2000年河川審議会答申である「氾濫を許容する治水理念」を十分に尊重したものでなければなりません。

しかし、現計画案は①環境を疎かにしている、②住民の意見が吸い上げられない可能性がある、③印旛沼経由の新利根川放水路計画が県の印旛沼再生計画と不整合、④新行徳可動堰建設が絶滅危惧種ヒヌマイトトンボ、絶滅の恐れのあるトビハゼ地域個体群を消滅させる恐れがあり、これらの理由から現計画案を認めることができません。

楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

以下の部分について公表します

届出者の住所

千葉県 流山市

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人 2

利根江戸-30

意見の概要

江戸川と利根川を結ぶ利根運河は明治23年に竣工、幾多の水運の歴史を残し、野田緊急暫定導水路の時代を経て、今回高水流量500t/秒から0t/秒の大きな節目を迎えた。約27本の排水涵管から生活及び産業廃水の流入が多く、水質は環境基準を大きく上回る。水質改善のための国県流域3市、住民及び企業の協働の場作りを提案する。活用においては、隣接する里山でオオタカ、サシバ等15種の猛禽類が、川表ではソコトラノオ、フジバネ等500種を超える植物の開花が確認され、豊かな生態系が実感できる場、歴史・文化が味わえる散策路として評価が高い。したがって、観光地化や舟運の復活等、構造上の大きな変化が想定される事業は確かな部分に止め、運河開削前、この地にあった三ヶ尾沼谷津水系(三ヶ尾沼に集水した湧水が利根川に注いでいた)その頃の二次的自然の再生を河川整備計画の目標とすべき。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

届出者の住所

千葉

都(県)

松戸(市)

区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

公述人3

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

利根江戸-37

意見の概要

1、河川敷の有効利用の拡大
 現在はゴルフ場、グラウンドなどに利用されているが、市民に一坪菜園として利用できないか。市民が今まで以上に河川に触れ親しみをもちたい。そのための道路も必要であろう。

2、ビオトープの増設促進
 河川敷の各所にビオトープが造られているが市民の憩いの場ともなり、地球環境にも最適である。特に市民が手を浸せる小川も河川敷に引くとよい。

3、スーパー堤防の促進
 スーパー堤防は安心と美化で賛成である。出来れば天板が車道にしてほしい。なぜならば、運転していて川が見える方が心にやすらぎを持つ。

※出席希望日 3/28 野田、3/6 春日部、3/9 取手のうち一日。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

以下の部分について公表します

届出者の住所

千葉

都(県)

松戸(市)

区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人4

利根江戸-22

意見の概要

今後の公共事業では、関係する住民の合意と理解が重要になる。とくに河川整備事業は、流域住民の生活への影響が大きいことから、単に整備にかかわる情報を提供するだけでなく、多様な立場の流域住民による協議の場を設け、事業が進められるべきと考える。

現況では、流域懇談会などがあるが、地域的に分散したもので、流域全体を視野においた「協議の場」になっていない。

河川法には整備計画策定における「住民意見の反映」が規定されているが、整備事業の実施においても住民意見を反映する仕組みが求められ、それは流域単位の広がりを持つ「協議の場」である必要がある。

以上の理由から、河川整備計画に、学識者、漁業関係者、河川関係のNPO、地域団体関係者、流域自治体職員などで構成される「河川整備流域協議会(仮称)の常設」を盛り込むよう求める。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

届出者の住所

都・県

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性 ・ 女性

公述人 5

利根江戸-41

意見の概要

私は岩手、山、川、海の懐に抱かれ育ちました。子供の頃祖母が「山の本は木がめなのよ、水は命だ。だからむやみに木を切り、山を削り、川を堰き止めるのはと自然に抗うと子々孫々に竹筒返しがかかるよ」と言っただけでした。人間は100年しか生きられない中、その時の短く限られた人の利益の為に数百年もの間多くの生物の命を支えてきた自然体系を破壊してしまふことの傲慢さは許されざるものではないでしょうか。人間と小さな生き物があるという謙虚さを捨て続けたい。と、今日も利根川と江戸川が悠悠と流れていまして、川は心の故郷と語り、という明治時代の野田の作曲家山中正治先生は次のように語り、いいます。利根川、霧峰と毛野の山が崖かにと見え、これと幾片が雲の越えけんあふなつものし、小川と、色ど利根川の、こゝたから利根川の上流に、谷の出水と、想はす子こをすらも出来ません。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

千葉県松戸市

55歳

公述人 6

利根江戸-20

松戸は江戸川の左岸に位置し、江戸川の水を水道水として利用しています。松戸の緑地が年々減少する中で、今では江戸川の水面と河川敷は緑地として大切な役割を担っています。そして松戸にとどまらず、河川と河川敷、さらには川沿いの丘陵に沿った斜面林が美しい景観をつくり、上流から下流へと連綿として続いている大切な自然の財産だと思います。ですから自分たちが水に困らないように、洪水に合わないようにと、はるか遠くにダムを作ってその地域の美しい景観と生態系を破壊する事は、そこに暮らす人々に対しても、未来世代に対しても許されない事だと思います。私は「まつど雨水の会」で「遠くのダムより近くのミニダム」を合言葉に、大型ダムに頼らず、内水被害をもたらす集中豪雨対策にも、地域に降った雨水は貯留して利用・浸透させていこうと呼びかけています。その方が、巨額の税金を投入して大規模なダムやスーパー堤防を作るよりも賢い選択です。